

令和8年度

愛知県民俗芸能大会

田原市大会

田原文化会館 文化ホール
田原市田原町汐見5番地



『犬山祭車山行事 熊野町組 住吉臺 からくり「住吉・白楽天」』
一般社団法人犬山祭保存会(犬山市)



『須成鼓笛保存会 神子太鼓』
須成鼓笛保存会(蟹江町)



『西山方歳』
西山方歳保存会(豊田市)



『大獅子小獅子の舞』
半田市成岩第四区獅子保存会(半田市)



『棒の手』
貝津田棒の手保存会(設楽町)



『豊島大念仏おどり』
豊島大念仏保存会(田原市)

入場無料

令和8(2026)年

8月30日(日)

午後1時開演(午後0時30分開場)

入場方法 (①、②のいずれか)

入場には、入場整理券もしくはオンライン
申込が必要です。(先着順)

①入場整理券(7月8日(水)から配布)

〈配布場所〉

- 愛知県民文化局文化芸術課文化財室
(愛知県庁西庁舎8階)
- 田原市博物館 ●田原市教育委員会 生涯学習課
- 田原文化会館 ●渥美支所 市民サービス課
- 赤羽根市民センター

※郵送を希望する場合は、愛知県民文化局文化芸術課
文化財室に電話にてお問合せください。

②オンライン申込(7月8日(水)から受付)

「あいち電子申請・届出システム」にアクセスし、
「令和8年度『愛知県民俗芸能大会』入場申込」の
画面から申込みをしてください。

問合せ先

- 愛知県民文化局文化芸術課文化財室(土・日・祝日を除く)
愛知県名古屋市中区三の丸3丁目1-2 TEL/052-954-6783
- 田原市教育委員会文化財課(田原市博物館)(休館日を除く)
愛知県田原市田原町巴江 11-1 TEL/0531-22-1720



公共交通機関をご利用の場合▶電車利用▶豊橋鉄道渥美線「三河田原駅」下車、徒歩約15分
車でお越しの場合▶東名高速道路:音羽蒲郡IC・豊川ICから約50分

主催:愛知県・田原市

令和8年度

愛知県民俗芸能大会

田原市大会



犬山祭車山行事 熊野町組 住吉臺 からくり「住吉・白楽天」

▶一般社団法人犬山祭保存会(犬山市)

▶国指定重要無形民俗文化財(犬山祭の車山行事)

能楽の「住吉・白楽天」から物語をとったからくり由来しているもので、「唐の白楽天と老漁夫の知恵問答」が繰り広げられます。平安時代に玄宗皇帝の使者として唐の国から白楽天が民情視察のために日本へ渡ってきます。そして日本の海神である住吉明神と問答します。白楽天は中国にはすばらしい漢詩があると披露し、住吉は日本には和歌があると応じます。白楽天は日本の文化の質の高さに驚き帰っていくという国威発揚の内容です。からくりでは、白楽天はお社頭(しゃとう)に変身し、住吉は神橋(しんきょう)に変身します。どちらも見事な変わり身の速さが見どころとなっています。変身からくりの技術は、古来からの折り紙の技法を応用して現代のものをコンパクトに縮める技術の源流とも言われています。



須成鼓笛保存会 神子太鼓

▶須成鼓笛保存会(蟹江町)

▶国指定重要無形民俗文化財(須成祭の車船行事と神渡流し)

須成地区の氏神である富吉建速神社・八綱社の祭礼として行われる須成祭は、400年以上の歴史があるとされています。8月第1土曜日に「宵祭」、翌日曜日に「朝祭」が蟹江川を舞台に行われます。一連の行事は平成24(2012)年に重要無形民俗文化財、平成28(2016)年にユネスコ無形文化遺産に登録されました。今回演奏する曲は、須成祭の宵祭、朝祭において、須成神社境内で奉納する曲打太鼓です。バチを回転させたり、投げたりしながら叩く曲で、アクロバティックなバチさばきと威勢のいい音色が特徴です。「神子太鼓(前)」、「しくるま」、「森津」、「四ツ節」、「神子太鼓(後)」の5曲を披露します。力強い演奏を是非お聞き下さい。



西山万歳

▶西山万歳保存会(豊田市)

西山万歳の始まりは、元亀元(1570)年ごろ知立神社の宮司の娘(お万の方)が、徳川家康の侍女になってから、氏子百姓総代で西山(現在の西岡町)に住んでいた堤村の庄屋中野万五郎が毎年正月に万歳舞を刈谷藩の江戸屋敷に送り、新春を寿ぎ奉祝の舞をしたのが、始まりと伝えられています。西山万歳保存会は、平成4(1992)年に西岡町区民会館の竣工式に合わせて結成され、現在は7名で活動しています。地元の堤小学校で児童の指導に積極的に参加し、伝統芸能の継承に努力しています。また、平成17(2005)年には世界の祭り「愛知万博」の大舞台にも出演することができました。現在の課題は、後継者の育成です。一人でも多くの方に仲間になっていただき、これからも歩み続けつつ、いつまでも西山万歳を継承して行く所存です。



大獅子小獅子の舞

▶半田市成岩第四区獅子保存会(半田市)

▶県指定無形民俗文化財

成岩の氏神である成岩神社祭礼に奉納される神楽獅子で、「大獅子の舞」と「小獅子の舞」の2つの対照的な性格の舞で構成されていて、ともに江戸時代中期に行われていた記録が残っています。「大獅子の舞」は、おおらかで優雅な舞で、乱獅子、花獅子、鳶獅子、剣獅子の4曲が伝承されています。大獅子には、神の使いである白鷺の冠を被った「ささすりの童子」が寄り添います。「小獅子の舞」は、急テンポな曲に乗り、龍が地をのたうつ姿や雲を呼んで天に昇らんとする姿を演じます。その姿が現すように、この舞には雨乞いの祈りが込められています。脇役として、おかめ・ひよっとこの「面能連中」が登場し、小獅子の舞を引き立てます。



棒の手

▶貝津田棒の手保存会(設楽町)

▶町指定無形民俗文化財

棒の手は、永保3(1083)年に武術としてでき、天文12(1543)年には農民が技をみがき、次々と流派ができました。起倒流は元亀4(1573)年にあみ出され(尾張)、豊田市をへて貝津田に明治13(1880)年に伝承されました。愛知県には棒の手が多くありますが、設楽町は、東三河で唯一、棒の手を行っているところです。



豊島大念仏おどり

▶豊島大念仏保存会(田原市)

▶市指定無形民俗文化財

大念仏(念仏踊り)は、初盆の霊を供養するものです。元々は、この地域から遠州へ茶摘みに行った際、当時、遠州で行なわれていた念仏踊りを見聞きし、行われるようになったとされています。かつて、お盆に行われていた豊島大念仏は、初盆の各家を回っていましたが、現在は地元の光福寺と地区の集会所で行われています。念仏供養では、念仏や歌枕から始まり、放下(子供の花笠)、棒踊り、返し踊り、跳ね踊りが演じられます。念仏踊りは田原市でも広く行われてきましたが、昭和中期頃にはほとんど途切れてしまい、現在残っているのは豊島町のみです。